

京都 花山天文台

将来構想 概略案 / イメージ

京都 花山天文台

1000年の過去から1000年の未来へ
～京都と人と宇宙をつなぎます～

京都大学大学院理学研究科附属花山天文台は、1929年の花山天文台の設立以来、日本の天文学研究のさきがけ、拠点として、その隆盛を強く牽引しトップクラスの研究者と研究成果を育んできました。

また在野、アマチュアの天文家との活発な交流を通して、その裾野を広げ世界ともいわれる日本のアマチュア天文学界の発展にも貢献してきました。さらに、火星観測や太陽観測研究における、顕著な功績も特筆されるところです。

そして今、花山天文台は研究用の天体観測所としての役目から、子どもたちや市民への教育や天文学の普及を担う教育学習施設への進展を期待されています。天文学を文化として根付かせてきたかけがえのないこの資産を将来にわたって有効に活用するため、ここに新たな将来構想を提案します。

既存施設概要

- ・本館：9m ドーム施設、口径 45cm 屈折望遠鏡
- ・別館：3m ドーム施設、口径 18cm 屈折望遠鏡
- ・太陽館：太陽専用の観測装置、70cm の太陽追尾型
- ・新館：研究室、コンピュータ室、宿泊室

所在地

京都市山科区北花山大峰町

- ・交通：市営地下鉄・東西線・蹴上駅下車、タクシー 5 分または徒歩 45 分
- ・交通：京都駅下車、タクシー 20 分



参考

www.kwasan.kyoto-u.ac.jp

伝統ある花山天文台を、「千年の都・京都の誇る“知の科学文化遺産”」に。次世代に継承し、新たな宇宙科学研究・開発の体験ステージとして躍進させます。

京都大学大学院 理学研究科附属 花山天文台

京都花山天文台宇宙科学館（仮称）

[発起人代表]
京都造形芸術大学学長
尾池 和夫



テーマは「宇宙と人」～過去・現在・未来のシーンを京都から～

宇宙と生きる

1. ミュージアム・ラボ

次世代の科学教育・学習に貢献！

(※京都（府・市）をはじめとした近隣府県の小中学校の見学や実習を受け入れる)

芸術・歴史・文化から宇宙平和まで！

宇宙総合学の研究成果の発露の場としての役割も。

古代から現代・千年を超える歴史・宇宙と人を考える



主な機能

4次元宇宙シアター / プラネタリウム / 図書スペース
最新研究成果の展示 / アートギャラリー

宿泊キャンプ型の検討も

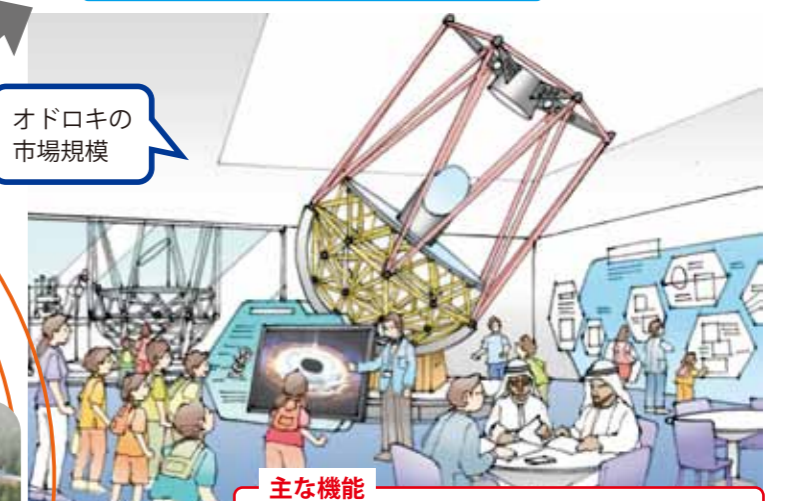
4つのラボの融合で展開する「京都発のサイエンスセンター（機関）」として新展開！

宇宙を学ぶ

3. ミラー・ラボ

遙かなる宇宙への挑戦。製産工程見学と製作実器（望遠鏡）による観望イベントも。

世界最先端の望遠鏡製作技術の実際



主な機能

望遠鏡の開発・製作、研究者との出会いトーク
研削・研磨による鏡製作 / 超軽量架台 / 分割鏡制御
スペースデブリ用望遠鏡 / 半導体露光装置への応用研究開発

オドロキの市場規模

文化、科学・技術とモノづくり



[現状]

[新展開イメージ]

宇宙と遊ぶ

2. コミュニケーション・ラボ

野外コンサートや星空観察会等のイベントを開催。家族連れも自由に遊べる広場

文化と科学技術の出会い異文化融合の場



主な機能

野外コンサート / 星空観察会等のイベント
イベント時以外は来場者が自由にくつろげる広場

新たな発信拠点

京都大学・自治体・民間の協力による運営

宇宙を使う

4. インキュベーション・ラボ

京都から育まれる新たな技術の開発、普及、啓発！

事業創生産学協働の場、科学技術とモノづくり



出展ブース型で常に新鮮かつ安定収益

主な機能

出展企業の展示・イベント
京都大学の研究者と企業のマッチング
学生のインターンシップ

資金計画と事業スキーム概要（案）

望遠鏡製作を行う新会社（ベンチャー会社）の誘致、科学館（博物館・プラネタリウム）、宇宙インキュベーションセンター等の運営を行う一般社団法人の設立等をめざし、外部の資金による維持・運営を行う。